Osaka University Knowledge Archive

Title	ごあいさつ
Author(s)	川勝, 傳
Citation	癌と人. 1981, 8, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/24193
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

ご　あ　い　さ　つ

理事長　川　勝　　傳*

1980年代は激動の時代といわれております。それは近代社会のあらゆる局面が大きく変革されるであろうということであります。

そうした環境のなかで，もしも人類が危機におかれているとすれば，わたくし達は，人類社会のあらゆる価値を客体的にながめるのではなく，自から行動して，新しい価値を創造し実現していかなければなりません。

このような時代においては，医学の領域にあっても，単に個人の健康のみにとどまらず，社会の，さらに人類の精神的・理性的な健全さを保つことに重点が置かれなければなりません。

財団法人「大阪癌研究会」が，ガン撲滅のための事業目標をかかげて，ガン研究機関への学術研究助成，ガンの検診普及活動に地道な努力をつづけておりますのも，こうした見地に立っております。

日本人の平均寿命が世界のトップレベルにあることは周知のとおりでありますが，医学のめざましい進歩の中にあって，人類最後の敵といわれるガンに対するたたかいは，必ずしも明るい見通しにつつまれているとは申せません。

わが国における死亡原因においても，ガンが脳卒中をこえて第一位になった地方が順次増加を示し，部位別では胃ガン・肺ガン・子宮ガン・乳ガンという順で発生がみられ，近年の傾向としては肺ガンの急増，胃ガンの減少，さらに乳ガン・腸ガンといった欧米風のガンが増加しているといった状態であります。

わたくし達，ガン撲滅を目指すものにとっての夢は「ガンの本態が究明され，予防方法が確立されること，そして不幸にしてガンになっても血液検査で診断ができ，かの結核の特効薬ストマイのように注射（クスリ）で治療できること」であります。

わたくし達は，日進月歩の医学に期待することはもちろんでありますが，自らの健康管理，すなわちガンの早期発見，早期治療の実践から出発して，わたくし達の周囲に存在するガンの環境因子に絶えず監視の目をゆるめず，真剣に，ガン回廊の道を歩みつづけて，大きな社会運動としてのガン制圧に取り組んでまいりたいと念じております。

みなさまのあたたかいご支援とご協力を心からお願い申しあげる次第であります。

* 南海電気鉄道株式会社代表取締役社長